

「地質調査業と J A B E E 制度」

応用地質株式会社 取締役常務執行役員 経営企画本部長 中川 渉

企業人として求められる資質として、経済産業省、日本経済連等様々な団体が表明している。社会には様々な職業があり、これらに共通する資質項目として12の要素がある。それらは行動力、自己管理、責任感、課題発見、計画力、規律性、チャレンジ、コミュニケーション、傾聴力、柔軟性、創造力、リベラルアーツである。

一方地質技術者には、そのほかに現場力が求められる。この現場力には前記した12の資質項目がすべて含まれていると考えられる。

当社において、過去三カ年に入社した技術社員70名にアンケートを行い、業務を進めるうえでの J A B E E 取得について調査した。その結果 J A B E E 取得については、学生時代での取得が非常に役立つ基礎教育という大半の結果を得ている。当然企業では、技術士等の資格取得に対して技術指導を行い、P D C A を回しながら O J T を通じての現場教育を行う。しかしながら技術士補取得に必要な、様々な習得項目は業務をしながらの取得は困難と感じ、職員の印象では逆に障害となるケースもある。業界にとって現場対応は重要な資質である。基礎教育上に立ち、現場対応を充分に行い考える力を養い、技術士を取得することが必要である。

J A B E E 習得では、専門的な学習のみならず、リベラルアーツ、柔軟性を含めた様々な基礎項目を身に着ける機会でもある。是非とも各大学では J A B E E 制度を導入し、学生の企業人としての自覚を促してほしいと考える。